

1. 第4回石本基金出版助成 公募開始のお知らせ
2. 2009年度 石本基金若手研究助成 結果報告

1. 第4回石本基金出版助成 公募開始のお知らせ

昨年冬に行った第3回公募に続き、石本基金出版助成第4回公募を今夏開始いたします。

この事業は、広義の科学哲学分野の堅実な基礎研究の発展に資するべく、この分野の研究への有意義な貢献をなし、研究水準を高めると評価しうる著作の出版助成を行うことを趣旨とします。特に、商業的な出版ルートに乗りにくくとも学術的に資するところの多い著作を優先して刊行します。

応募条件は以下ようになります。

1. 助成の対象は会員に限る。
2. 石本氏の研究領域も勘案しつつ、「科学哲学および関連諸領域に関する研究の推進」（本学会則第3条「本会の目的」）に資する、著作であること。
3. 内容的な水準はいわゆる論文博士程度。扱われている主題に通暁している専門家による査読がある。
4. 助成金額は原則として各年度1件、100万～200万円程度。
5. 刊行が決定した著作については石本基金の出版助成を受けた旨を明記する。〔文部科学省、学術振興会等の出版助成が得られた場合には、石本基金からの出版助成を辞退する。また初版一刷の印税は基金に還元する。〕

第4回公募期間は2009年6月20日～2009年7月20日です。

出版助成申請書および原稿作成要領は、ホームページに掲載しておりますので、申請書末尾の記入要領と原稿作成上の注意をよくお読みいただき、必要な提出物を全て揃えた上でご応募くださるようお願いいたします。

2. 2009年度 石本基金若手研究助成 結果報告

「若手研究助成」作業部会長 金子洋之

2009年度の「石本基金 若手研究助成」審査結果は、以下のようになりましたのでご報告いたします。

審査員 金子洋之（作業部会長） 岡本賢吾 出口康夫 加地大介

審査結果 全5件の応募のうち、以下の3件を採用、1件を次点とした。

採用者及び研究題目

山田圭一「帰属者の文脈主義モデルを用いた認識的規範の多元性の解明——正当化の内主義と外在主義の調停を目指して——」

四津雅英「発語内行為について——〈表向きの態度〉と〈社会的位置づけ〉の概念に基づく分析——」

入江俊夫「数学における問題と解決との関係と証明概念～『論理哲学論考』から『数学の基礎』に至るウィトゲンシュタインの数学の哲学の展開の意味～」

次点

村瀬智之「傾向性 (disposition) の存在論的身分にかんする形而上学的研究」

助成金額 1名につき 35 万円 (期間: 2009 年 4 月 - 2011 年 3 月)

審査経過

今回応募者は全体で 5 名であった。各応募者の研究計画を審査委員に回し、審査委員ごとの評価を出した上で、全体の総合評価を行うという従来の方式を踏襲して審査を行った。その結果、応募者数が比較的少なかったものの、若手助成の趣旨を生かすという意味で、助成枠いっぱい の 3 名を採用するというように決定した。なお、この決定は、運営委員会の承認を得た上で実行に移されている。以下、今回採用の 3 名の研究計画について簡単に触れておきたい。

山田氏の研究計画は、内在主義 vs 外在主義という現代認識論の大きな争点について、両者の正当化条件を排他的なものとは捉えず、知識評価における多元性に着目して調停を目指すというものであり、アイデアの斬新さ、論点の広がりなどの点で各審査委員から高い評価を得た。また、これまでの自身の研究を踏まえた計画であり、準備状況も十分だという判断がなされた。

四津氏の研究計画は、発語内行為に関して規約が本質的か否かをめぐる論争に対して、〈表向きの態度〉と〈社会的位置づけ〉という概念を持ち込むことによって、新たな発語行為の分析を提唱するものであり、着眼点の新しさ、準備状況等について、これまた各委員から高い評価を得ている。

入江氏の研究は、後期ウィトゲンシュタインの数学論の解明というきわめて野心的なものであり、独自の視点もあるものの、研究の焦点が絞り切れていないのではないかという疑念、あるいは 2 年という研究期間でカバー仕切れるのかといった疑問が上がった。しかしながら、これらの点については、問題を多少絞ることによって一定の成果は期待できると判断し、採用という結論にいたった。

* 2010 年度の若手研究助成募集について

来年度の若手研究助成公募受付は、2009 年 12 月 1 日～ 2009 年 12 月 20 日を予定しています。応募用紙は 11 月中旬に公開予定です。

〒 156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部哲学研究室内 日本科学哲学会事務局

fax. 03-5317-9217 (「日本科学哲学会」宛であることを明記して下さい。)

e-mail. philsci@chs.nihon-u.ac.jp

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>